

令和7年度 全国学力・学習状況調査
教科に関する調査結果及び考察について

保護者の皆様へ

白河市立白河第一小学校長

令和7年4月17日に実施しました「全国学力・学習状況調査」の教科に関する調査結果及び考察についてお知らせいたします。

この調査は、学校における児童への教育指導や学習状況の改善等に役立てることなどを目的としています。

調査対象は6年生で、国語、算数、理科の3教科を実施しました。

本校では、教科に関する調査結果とその考察、ならびに指導方法を改善する取組をお知らせし、学校と保護者や地域の方々がともに手を携えて、児童の学力向上や学習環境などの改善に取り組んで参りたいと考えておりますので、ご理解とご協力をお願いします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の一部であること、また、学校における教育活動の一側面の結果であることをご理解ください。

【本校と全国の平均正答率比較】

教科	全国平均 正答率	下回っている	やや下回っている	ほぼ同じ	やや上回っている	上回っている
国語	66.8%					○
算数	58.0%			○		
理科	57.1%		○			

【国語：本校と全国の領域別平均正答率比較】

領 域	全国平均正答率	下回っている	やや下回っている	ほぼ同じ	やや上回っている	上回っている
言葉の特徴や使いに関する事項	76.9%					○
情報の扱いに関する事項	63.1%					○
我が国の言語文化に関する事項	81.2%	○				
話すこと・聞くこと	66.3%					○
書くこと	69.5%					○
読むこと	57.5%			○		

【考 察】

- 毎日の授業において、話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの中心を捉えることや、話し合い活動で自分の立場を明確にしながら考えをまとめることを積み重ねてきたことで、話す・聞く力が向上しました。
- 「我が国の言語文化に関する事項」の領域では、時間の経過による言葉の変化や世代による言葉の違いに気付くことに課題が見られました。自分たちの使っている言葉とは異なる言葉があることや、世代特有の言葉遣いがあることに気付き、言葉への関心を深めていくことができるよう指導していきます。

【算数：本校と全国の領域別平均正答率比較】

領 域	全国平均正答率	下回っている	やや下回っている	ほぼ同じ	やや上回っている	上回っている
数と計算	62.3%					○
図 形	56.2%	○				
測 定	54.8%			○		
変化と関係	57.5%					○
データの活用	62.6%					○

【考 察】

- 「数と計算」の領域において、朝の「ステップタイム」や単元末の「白ータイム」を活用し、繰り返し基礎的・基本的な学習に取り組んだことにより、計算力及び理解力が向上しました。
- 「図形」の領域において、図形を構成する要素とその関係に着目し、図形の性質や図形の計量について考察することに課題が見られました。今後の授業において、辺の長さや大きさ、辺の位置関係などの図形を構成する要素に着目して、図形を弁別したり、形が複雑な図形の面積の求め方を説明したりする活動を位置付けていきます。

【理科：本校と全国の領域別平均正答率比較】

領 域	全国平均正答率	下回っている	やや下回っている	ほぼ同じ	やや上回っている	上回っている
エネルギー	46.7%					○
粒 子	51.4%	○				
生 命	52.0%	○				
地 球	66.7%		○			

【考 察】

- 電気の回路のつくり方、顕微鏡を操作する力に課題が見られました。今後は授業において、児童が正しい技能を身に付けるとともに、実験器具を操作する場を意図的に位置付け、実感を伴った理解につなげていきます。
- 種子が発芽する条件を調べる実験において、条件をそろえる観察や実験の方法を計画できるかどうかをみる問題に課題が見られました。変える条件と変えない条件を整理しながら解決方法を考えることについて、意識して授業を改善していくことが大切と考えます。

令和7年度 全国学力・学習状況調査 質問紙調査結果及び考察について

保護者の皆様へ

白河市立白河第一小学校長

「全国学力・学習状況調査」では、学習や生活の状況について質問紙による調査も実施しましたので、その結果及び考察の一部をお知らせいたします。

特に、児童の家庭学習の取組や読書の様子など家庭生活に関する調査結果を公表し、学校と家庭・地域の協力体制を強化していくことを目的としています。

この結果を、ぜひご家庭でも子どもさんと一緒に話し合っ、て、家庭生活の見直しに役立ててくださるようお願いいたします。

- 1 分からないことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することはできていますか。

		できている	どちらかといえば できている	どちらかといえば できていない	できていない
小	全 国	32.6	49.1	15.3	2.8
6	白一小	40.0	44.0	14.0	2.0

(単位 %)

【考 察】

- 考えることに対して消極的な児童もいるため、まずは自分なりの考えをもつことができるよう、個別探求の時間に意図的に支援したり、話し合いの機会を設定したりしています。その結果、自分の考えに自信をもって授業に臨める児童が増えています。さらに、自分の考えを広げたり、深めたりできるように努めていきます。
- 家庭学習の取組みの際には、教科や内容の得意・不得意などを自己分析する機会を設け、それらを基に自主学習の内容を工夫することで、自己マネジメント力を高めていきます。

- 2 授業時間以外に、普段（月～金）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか。

		3時間以上	2時間以上 3時間未満	1時間以上 2時間未満	30分以上 1時間未満	30分未満	全くしない
小	全 国	12.1	12.8	29.1	27.4	12.9	5.7
6	白一小	4.0	26.0	52.0	14.0	4.0	0.0

(単位 %)

【考 察】

- 自主学習ノートを紹介したり、教室に掲示したりするなどの取組みを行い、家庭学習に対する児童の意欲を高めたことで、約80%の児童が家庭学習の目安となる60分（1時間）以上を達成することができています。今後は、自主学習に対する取組み方や内容の指導により、家庭学習の質的な向上を図っていきます。
- 「家庭学習生活ノート」を活用し、自己分析をする時間を意図的に設け、毎週の振り返りを行うことにより、児童の自己マネジメント能力が育ってきています。今後は、中学校へ向けた学習の習慣化と目的をもった学習の必要性について指導し、さらに自己マネジメント力を高められるようにしていきます。

- 3 学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか。

		当てはまる	どちらかといえば 当てはまる	どちらかといえば 当てはまらない	当てはまらない
小 6	全 国	3 1 . 2	4 8 . 2	1 7 . 1	3 . 3
	白一小	4 0 . 0	5 0 . 0	1 0 . 0	0 . 0

(単位 %)

【考 察】

- 授業の終末段階での振り返りや、次の時間にはどのような学習をしていくのかを見通しを持たせる時間を設定することで、学習のつながりを意識しながら学ぶ児童が増えました。今後は、学んだことを生かして、次の学習や新たな課題に向かう力を育てていきます。
- 今後も、基礎基本の定着の時間や活用及び習熟の時間を設定し、「授業→家庭学習→ステップタイム（基礎基本の定着の時間）→白一タイム（習熟度別学習）→家庭学習」の学びのサイクルにより、学習内容の定着及び活用力の育成を図っていきます。

- 4 5年生までに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していましたか。

		発表していた	どちらかといえば 発表していた	どちらかといえば 発表していなかった	発表していなかった	考えを発表する 機会はなかった
小 6	全 国	2 6 . 8	4 1 . 8	2 2 . 7	7 . 0	1 . 6
	白一小	2 6 . 0	4 0 . 0	2 8 . 0	6 . 0	0 . 0

(単位 %)

【考 察】

- 学級全体で話し合う際には、まず自分で考えたりまとめたりする時間を十分確保することを大切にしています。その結果、自分の考えを伝えるだけでなく、分からないところを質問したり、友だちが困っているところを補ったりする発表が増えてきています。
- 授業の中で自分の考えを発表する時間を設定してきたことで、発表できる児童が約70%と昨年より増えています。今後も、児童が互いの考えを受け止め、認め合いながら意見を交流していくことで、全ての児童が自信をもって自分の考えを発表できるようにしていきます。